

ATTENTION

理想の株主還元の姿-IBMの例

	2012年	2011年	2010年	2009年	2008年	2007年
純利益(億ドル)	176	163	150	134	123	104
FCF(億ドル)	182	166	154	173	146	115
1株配当金(ドル)	3.4	3.0	2.6	2.0	1.6	1.2
配当金(億ドル)	38	35	32	29	26	21
自社株買い(億ドル)	120	150	154	74	106	188
合計(億ドル)	158	185	186	103	132	209
総還元性向(%)	90	113	124	77	107	232
発行株数(百万)	1120	1190	1269	1327	1369	1434
株価(ドル)	192	184	147	131	84	108

この表はIBMの過去6年間の収益、株主還元の状況と株価の推移を示しています。これを見ながら、利益をどう株主に還元しているかを見てみましょう。まず純利益は着実に伸びています。リーマンショックが経済に打撃を与えた2008年、2009年も増益を保っています。そしてフリー・キャッシュ・フロー(FCF)は安定して生み出すことが極めて難しい中で、利益水準を上回るレベルのキャッシュを毎年生み出しています。そして株主還元では1株配当金は1.2ドルから3.4ドルに5年前の3倍近くに増え、自社株買いは毎年、配当金支払額を2.5倍から9倍上回る高水準の自社株買いを実行しています。そして配当金と自社株買い合計の総還元額は6年中4年も純利益より多いのです。その結果が6年間で発行株数は22%減り、純利益は7割増え、1株利益は2.2倍になり、株価は約8割上昇しています。このような形で株主に還元していますので、株主資本利益率(ROE)は日本企業の平均が6%に対し85%と驚異的です。日本の企業も、ぜひこのような株主還元の姿勢を見習って欲しいものです。

OPINION

無登録FPが資産運用について助言するのは違反

ファイナンシャル・プランナー(FP)が、投資信託など金融商品を使い、お客様に資産運用を助言していることはよくあることですが、お客様が気がついていないで大事なことがあります。それは、FPがそのような業務を行うことは、金融商品取引法における投資助言行為にあたり、投資助言・代理業として登録する必要があります。日本FP協会も、この点については「投資助言業者でないFPは、業として有価証券などのポートフォリオのプランニングをすることができないから、この分野については正式に登録を受けた投資助言・代理業者に任せる必要がある。」としています。驚くべきことに、日本の場合、この業務を行いながら投資助言業として登録していないFPが大変多いのです。私も、びとうファイナンシャルサービスは、当然ながら投資助言業として登録しています。登録している場合には、営業供託金として500万円を日銀に供託し、弊社のお客様は一般債権者に先立って供託金の優先弁済を受ける権利がありますし、金融商品・サービスに関するトラブルが投資助言業者とあった場合に、お客様は裁判手続以外で簡易・迅速に解決する金融ADR制度を利用して、指定紛争解決機関(弊社は東京弁護士会)に調停・仲裁を申し入れることができます。無登録のFPの場合、お客様はこの制度を利用することができません。FPを選ぶ際には、きちんと登録されている業者か、金融ADR制度に基づく指定紛争解決機関があるかを、確認するとよいでしょう。

MARKET

	(2月末)	(前月比)
日経平均	11559.36円	+420.7円
NYダウ	14054.49ドル	+193.91ドル
米ドル	92.70円	+0.88円

WORDS

幸福は各自、自分自身の努力と修養によって勝ち得られ、感じられるもので、健康も大切、教育も大切、しかし世間で最も大切と早合点している財産だけは全く不用なもので、それよりもさらに大切なのは、一生涯絶えざる、精神向上の気概、努力奮闘の精神であって、これをその生活習慣の中に十分染み込ませることである。-本多静六

銀行や証券会社の営業の実態はすごい！

私も、びとうファイナンシャルサービスには、多くの方が相談に来られるのですが、その中で特に問題を強く感じるの、銀行や証券会社の営業姿勢です。言葉を選ばず率直にいいますと「あんたらはケダモノか?!」という強い憤りを感じます。そこまでひどい言葉を使うかと思う方がいらっしやると推察しますが、私が耳にする実態は、まさにその通りです。「銀行さん、証券会社さん、そんな商売やっていて、生きがいを感じるんですか?」と聞いてみたくになります。

実例としてあげれば、銀行員が85歳の高齢の女性宅に上がり込んで3時間も4時間も粘り、ノルマの投信を押し売り。子供にはあとで事後報告。証券会社の支店長が80歳を越える老夫婦に「私に任せなさい」と胸を叩き、店頭・成長株、アラブ株、インド株、USハイイールド債(投資不適格・高利回り)など、投機的で危険な投信を買わせまくり、1年で元本6000万円程度で2000万円の損失を出す、おかげで二人とも憔悴しきり、人生に大きな汚点を残す。銀行員が、退職金が口座に入れば即、保険や投信を勧めに馳せ参じる。金融資産のほとんどを集中的にリスクの高い投信に注ぎ込ませ、2、3年もすると他の投信に乗り換えを強く勧め、手数料稼ぎをする。

ところで私は先日隣駅にあるメガバンクに、ある手続きにいったのですが、夕方に担当者から、書類に不備があるのでもう一度来てもらいたいとの連絡がありました。私が「書類をチェックして手続終了したのだから、その修正であれば、そちらから来るのが筋ではないですか。」といいますが、「そういうことはしていません。」投信を売りに行くには、支店長自ら自宅に馳せ参じるのに、こういう手間だけかかり実入りがない場合には呼びつける。その神経を疑います。

現在、多少株式市場がよくなり、銀行や証券会社にとってはやっと一息というところですが、収益基盤は相変わらず弱いままで。証券会社は、長い間の株式市場の低迷で株の知識は乏しくなり株の売買を勧められず、投信しか収入源はなくなり、銀行は預かった預金を融資に回さず低利の国債ばかり買い、収入源を投信や保険の販売に求めるしかなくなっています。その明らかなし寄せが、皆さんに来ているのが実状です。彼らにはくれぐれも気をつけて接するのが賢明です。具体的には、彼らが勧める投資信託や保険などの金融商品は絶対に買わないこと、金融商品を選択する際には金融機関から完全独立の資産運用アドバイザーに相談することです。

SEMINAR

第24回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』

-こうすればしっかりお金を増やすことができる-

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品を売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しのつかない被害を被ることも珍しくありません。

- なぜ日本だけに投資してはダメか、海外投資の必要性とメリット。
- 本当に正しい資産運用法の実践法-やり方によって人生の分岐点にも。
- 証券会社や銀行がいう通りにしては、必ず失敗する。
- よい金融商品とはどういうものか。
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか。

詳細はホームページをご覧ください。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

日時 : 2013年3月17日(日)15:00~17:00

場所 : TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師 : 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費: 1000円(当日支払い)

申込み方法 : メールまたは電話にて「3月17日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール: info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

書評ブログ-平日毎日更新

<http://www.bfsc.jp>

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

発行者: びとうファイナンシャルサービス株式会社

電話: 03-6721-8386

FAX: 050-3156-1072

代表取締役 尾藤峰男

携帯: 090-4934-3121

電子メール: info@bfsc.jp